



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：サウダイゼーション新プログラム

(9日付アラブ・ニューズ紙)

サウジ政府は、サウダイゼーションを促進するための新たな計画を発表した。これに先立ち、アブドゥラー国王がサウジ人の若者に対する雇用対策を検討するための省庁横断委員会を立ち上げ、さらにサウジ人の最低賃金および失業手当をそれぞれ 3,000 リヤル（約 69,000 円）、2,000 リヤル（約 46,000 円）と定めた経緯がある。

ファキーフ労働大臣の発言

1. 新たな計画の下、民間企業はサウダイゼーションへの貢献度合いによって、緑色・黄色・赤色に区分される。また、赤色に区分された企業は、外国人労働者の労働ビザ更新に支障をきたすことになる。緑色に区分された企業は、黄色・赤色の企業に雇用されている優秀な外国人労働者を、雇用主の承認を得ることなく自社に引き抜くことができるようになる。
2. サウダイゼーション新プログラムは、ほとんどの企業が「緑色」に区分されるように設計されている。さらに、緑色に区分された企業への追加のインセンティブも検討されており、詳細は6月11日に発表される予定。
3. サウジ人の失業者は公式統計によると 448,000 人であるが、今後、新卒の失業者が増えることによりこの人数は増えると想定されている。さらに、8 百万人いるといわれる外国人労働者のうち、6 百万人は母国に多額の送金をしており、その額は 980 億リヤル（約 2 兆 2 千億円）にもものぼる。これに加え、これら外国人労働者へのインフラ提供や公共サービス提供がサウジにとっては大きなプレッシャーである。
4. サウジで働く外国人労働者は年率 5%の割合で増えており、これはサウジ人の人口増加率の約 2 倍である。この事実は労働市場のアンバランス化の原因となり、サウジ人の民間企業への就職を妨げるものである。
5. サウジの民間企業におけるサウジ人の雇用率は 10%以下であるが、現在の外国人労働者の 84%は高度な知識・技術を必要としない仕事に従事しており、これらの労働者を徐々にサウジ人労働者に置き換える。
6. 現時点でサウダイゼーションへの貢献が低い企業に対しては、改善のための猶予期間が与えられる。